

中学・高校

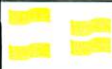



提案活動付き職場
体験プログラム
企画提案プログラム

提案学習用
教材・ワーク
シート

	職場体験事後学習の流れ テキスト	
	企画提案する問題点 (中学職場体験事後学習用ワークシートA)	
	企画提案する問題点の現状分析 (中学職場体験事後学習用ワークシートB)	
	職場体験活動日誌 ワークシート	
	「アイデアを出し合おう」 テキスト	
	「問題解決に向けての発想法」 テキスト	
	「KJ法」 テキスト	
	「なぜなぜ5回(真因探求)」 テキスト	
	「オズボーンのチェックリスト」 テキスト	
	「ちょっと大人な問題解決法(鍵を探せ編)」 テキスト	
	「ちょっと大人な問題解決法(席替え編)」 テキスト	
	「出典/引用の表示について」 テキスト	
	「企画書書き方のポイント」 テキスト	

職場体験事後学習の流れ

1. 職場体験で、気付いたことをたくさん出し合おう
2. 問題点を抽出分類しよう
3. 企画提案内容の決定
4. 現状分析（問題点の現状、背景を考えよう）
5. 解決方法を考えよう
6. 考えた内容の裏付けをとろう
7. プレゼンテーション資料の作成

1. 職場体験で、気付いたことをたくさん出し合おう		
ポストイットを使用して、ブレインストーミング 風にとにかくたくさんの気づきを出し合います。 手順 ①手法の説明 ②備品配布 （模造紙 ポストイット 筆記具） ③グループワーク	授業	ワークシート
	ブレインストーミング	なし
2. 問題点を抽出分類しよう		
1で作業した内容から、問題点を抽出します。また、 気づきから問題点を考えます。 次に、それらの問題点は誰にとっての問題点なの かを分類します。（経営者、従業員、お客様、社外 の人、中学生・・・）視点を変えることで新たな 問題点に気付くこともあるでしょう。 手順 ①手法の説明 ②備品配布（模造紙 ポストイット 筆記具 マーカー） ③グループワーク	授業	ワークシート
	なし	なし
	視点	問題点
	社長	
	従業員	
	お客様	
	取引先	

3. 企画提案内容の絞込・決定		
2 で抽出した問題点から企画提案する 1 つの問題点に絞込を行います。また、その問題を解決することでどのような効果を期待するか、なぜその問題点に決定したのかを確認します。	授業	ワークシート
	なし	ワークシートA
4. 現状分析（問題点の現状、背景を考えよう）		
課題とする問題点をより具体的に把握します。 5 W2H でまとめる	授業・説明	ワークシート
	なし	ワークシートB
5. 解決方法を考えよう		
3 で絞込んだ問題点について解決策を考えます。発想に行詰ったらオズボーンのチェックリストを使ってみましょう。	授業・説明	ワークシート
	<ul style="list-style-type: none"> ・オズボーンのチェックリスト ・シズとニズ ・ちょっと大人な解決法 	なし
6. 考えた内容の裏付けをとろう（分析）		
解決方法を考えたら、その解決方法が適切か吟味しましょう。第三者の視点から、数値的根拠、実例などを挙げ誰に説明しても納得できる内容に仕上げましょう	授業・説明	ワークシート
	出典/引用について	なし
7. プレゼンテーション資料の作成		
考えた内容を職場体験でお世話になった企業さんに、伝えましょう。伝えるためにはどのような手法、手順で伝えたらよいでしょう。	授業・説明	ワークシート
	・プレゼンテーション(ラ-ム)	なし

企画提案する問題点

年 組 名前

解決したい問題点

なぜそれが問題なのでしょう？

その問題を放置した場合のリスク・デメリットは何でしょう？

なぜその問題を解決しようと思いましたか？

この問題を解決することでどのような効果が期待されますか？

企画提案する問題点の現状分析

年 組 名前

解決したい問題点
この問題はいつ問題になりますか？ (When)
この問題はどこで問題になりますか？ (Where)
この問題は何が問題ですか？ (What)
この問題は誰にとって問題ですか？ (Who)
この問題はなぜ問題ですか？ (Why)
この問題はどのくらい問題ですか？ (How Much, How Many)

職場体験活動日誌

年 組 氏名

体験受入先

体験日 年 月 日()体験()日目

開始時間		終了時間		天候	
時間帯	担当者	体験内容	感じたこと 気付いたこと	体験後の企画提案学 習に活かしたいこと	
例) 9:00~11:30	東梅林さん	清掃作業/開店準備			
午前					
午後					

評価

	自己評価	担当者評価
始業時刻に遅れなかった	1・2・3・4	1・2・3・4
元気よく挨拶できた	1・2・3・4	1・2・3・4
正しい言葉使いができた	1・2・3・4	1・2・3・4
支持された仕事を最後までやり遂げた	1・2・3・4	1・2・3・4
協力して仕事ができる	1・2・3・4	1・2・3・4
進んで仕事に取り組めた	1・2・3・4	1・2・3・4

メモ (気付いたこと、考えたこと・・・)

アイデアを出し合おう

ブレインストーミング

ブレインストーミングとは、ある議題についてアイデアを出したい場合や、問題点を列挙したい場合などに、複数人が集まって自由に意見を述べる方法のことです。この方法により、新たな発想を生みだすことが期待できます。

四大原則

①3セズ(批判せず、議論せず、くどくど説明せず)

特定のアイデアに対してすぐに批判してしまうと、そのアイデアは育つ前に死んでしまいます。芽の段階での批判は簡単ですが、そこから発達するアイデアに飛躍的なものがあるかもしれません。批判されるのが嫌で発言を控える雰囲気になっては元も子もありません。また、量を出すことが目的ですのでここでは議論や説明の必要はありません。



②アイデアの量にこだわる。

アイデアの質を気にして発言を控えていては飛躍的なアイデアはなかなか出ません。質よりも量を追求することで、飛躍的なアイデアが出てくることを期待します。

③突拍子もないアイデアを歓迎する。

突拍子も無いアイデアは一見愚かな意見のように見えますが、参加者の頭の中や議論の方向性に刺激を与えます。また、同じ組織や会社のメンバーは「絶対に」固定観念を持っているので、そこから離れたアイデアの芽は突拍子もないアイデアから生まれることもあります。

④アイデアの便乗大歓迎。

他人のアイデアに便乗して他のアイデアを出すことは大歓迎です。量を多く出すことが目的ですので、一つのアイデアをヒントに様々なアイデアを出すことが必要です。

準備するもの

- ◇模造紙 ◇付箋紙 ◇サインペン(鉛筆)



進め方

- ①司会者(リーダー)を決める
- ②メンバーに付箋紙を配る
- ③個人で自由にアイデアを出す。付箋紙1枚に1アイデアを簡潔に書く(10以上)
- ④グループ内でそれぞれのアイデアを出し合う(3セズ)
- ⑤アイデアをグループ分けする(議論する タイトルをつける)
- ⑥できるものと、できないものに分ける
- ⑦商品を決める

問題解決に向けての発想法

発想法とは？

アイデアを出したり、自分の考えをまとめたり、人はあらゆる場面で、「考える」事をしています。自分では、意識をしていなくてもいつも何かを「考え」てるものです。そんな「考え」を進めたり、まとめたりする手助けをしてくれるのが「発想法」です。発想法は有名無名にかかわらずたくさんあります。「考え」の進め方も一人一人特徴があり癖があるものです。そんな発想法を含めるとその数は無限大ですね。ここでは、代表的な発想法の特徴や使用法を解説していきます。

発想プロセスの種類と特徴

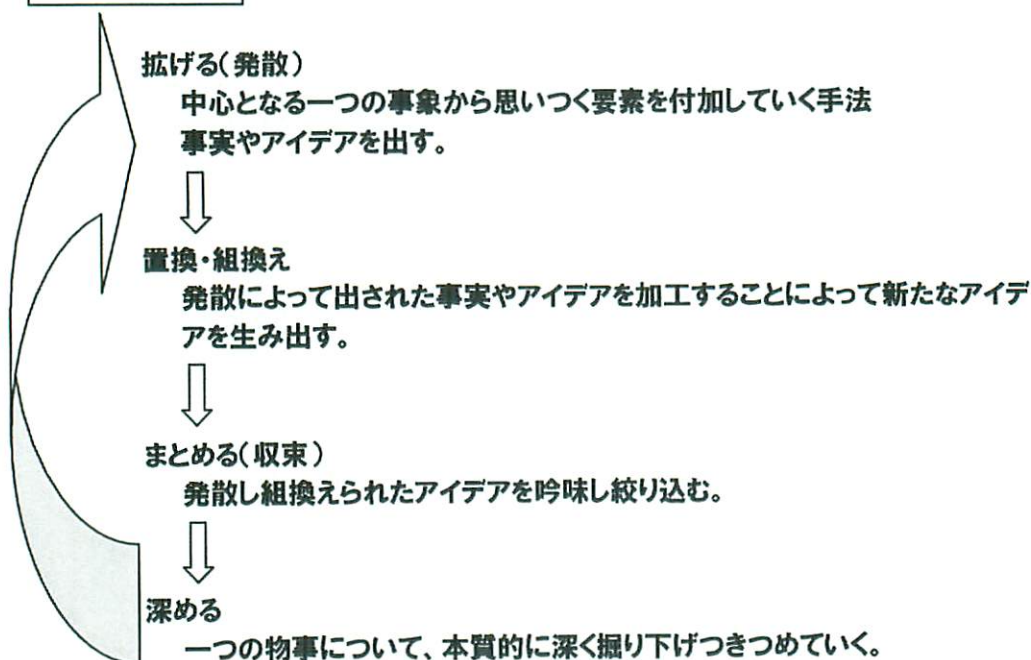
シーズ型

「自分たちの強み(技術、人材、資金など)で何ができるか」を考えていく方法です。

ニーズ型

「このような機能あるいは便益を求めている人々がいるが、それに応える方法はないだろうか」と考えていく方法です。

発想の流れ



料理に例えると

・食材を集める(発散)

食材が豊富だと料理はしやすい

・食材を厳選する(収束)

たくさんの食材を入れたからといって美味しくはない相性などを考えて選ぶ

・食材を料理する(アイデアを出す)

メニューや調理方法を決定する。
最適な調理方法で調理する

発想法の分類

拡げる(発散) ・マインドマップ・マトリックス法 ・マンダラアート ・ブレインストーミング	置換/組換え ・オスボーンのチェックリスト ・NM法
まとめる(収束) ・KJ法	深める ・なぜなぜ5回(トヨタ自動車) ・メタノート ・ラタリング法



KJ 法とは？

ブレインストーミングなどで出された多くの意見・アイデアをグループ化し、論理的に整理して問題解決の道筋を明らかにしていくための手法です。

文化人類学者、川喜田二郎氏が自身の研究活動の中から考案した方法です。KJは川喜田二郎氏のイニシャルからとられています。

方法

KJ 法は 4 ステップからなる。

カードの作成

1 つのデータを 1 枚のカードに要約して記述する。(※1 枚に 1 つのデータだけ。複数書き込まない。)

グループ編成

数多くのカードの中から似通ったものをいくつかのグループにまとめ、それぞれのグループに見出しをつける。

図解化(KJ 法 A 型)

叙述化(KJ 法 B 型)

様々な用途に合わせて色々なサイズのカードが用意されている。

1.意見・アイデアが書かれたカードをバラバラに広げる。

2.「小グループをつくる」

内容の似ているもの、非常に近いもの同士を一つのグループにし、重ねる。

3.「表札をつける」

それぞれのグループの内容を簡潔に表す見出しをつける。表札をグループの上ののせる。

※初めから多くをまとめようとする必要はありません

※1 枚のまま残る「一匹オオカミ」があってもかまいません。無理に他のグループに入れなくてください。

4.「中グループを作る」

小グループの表札からさらに中グループにまとめ表札を付けます。

5.「大グループに発展させ表札を付ける」

小・中グループをまとめながら大グループを 5～10 作り表札を付けます。

6.「空間配置」

大グループ間に関連性ができるように、グループを並べかえます。(配置の意味する内容をストーリーの様につないでしゃべれるようにするのがコツです)

7.「大グループ内の空間配置」

全体の空間配置の形を崩さないように大グループ間の間隔を広げます。

それぞれの大グループを小グループに分解し、その大グループ内で小グループの空間配置を行います。それぞれの大グループをグループがバラバラにならないように線で囲っておきます。





8.転写・関連付け



カードで作った空間配置を別の紙に写します。

転写する内容は「表札」です。

それぞれの表札の関係を図示します。

- 例)
- 関係あり 
 - 原因→結果 
 - 対立・反対 
 - 互いに因果関係 

(線の横に関係の言葉を記入するとより分かりやすい)

なぜなぜ 5 回(真因探求)

なぜなぜ 5 回とは？

トヨタ自動車の生産現場で業務改善を目指す中で生まれた手法です。「なぜ？」という問いかけを繰り返しながら、問題の根本的な原因である「真因」にたどり着きます。問いかけの回数は 5 回と決まっていますが、2～3 回では不十分で少なくとも 5 回は繰り返す必要があるという目安です。

方法

- 1.問題を書き出す
- 2.書き出した問題に対して、「なぜ〇〇なのか？」と質問する。
- 3.「●●だから」と答える。
- 4.2.3 を最低 5 回繰り返す。

例)

問題「机の上に置いていた大事なプリントがどこにあるか分からなくなった。」

問 1.「どうして分からなくなったのか？」

答 1.「机の整理整頓ができていない」

問 2.「どうして机の整理整頓ができていないのか？」

答 2.「時間がない。」

問 3.「本当に時間がないのか？なぜ時間がないのか？」

答 3.「学校から帰ったら、すぐゲームをしているから。片付けるのにも時間がかかる」

問 4.「なぜ片付けるのに時間がかかるのか？」

答 4.「机の上が散らかっているし、どこに何を片付けたらいいのか分からないから」

問 5.「どうして片付ける場所が分からないのか？」

答 5.「文房具や教科書やプリントを置く場所が決まっていないから」

オズボーンのチェックリスト

オズボーンのチェックリストとは？

アイデアが出てこないときに、無理矢理ひねり出すために利用する9つのチェックリストです。かなり強引な手法ですが、発想の飛躍ができるので、天才的なアイデアが出てくる場合があります。このリストを作ったオズボーンさんは、ブレインストーミングを開発された方です。

方法

以下の9つのチェックリストの項目に沿って発想していく。

チェックリスト	意味
1. 他に使い道は？	<ul style="list-style-type: none"> ・改善・改良して新しい使いみちは ・そのまま新しい使いみちは
2. 応用できないか？	<ul style="list-style-type: none"> ・他にこれに似たものはないか ・過去に似たものは無いか ・何か真似できないか
3. 変更したら	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいひねりは ・意味、色、動き、音、匂い、様式、型など一部を変えられないか
4. 拡大したら	<ul style="list-style-type: none"> ・より大きく ・何か加えられないか ・強く、高く、長く、厚く、頻度は、付加価値は
5. 縮小したら	<ul style="list-style-type: none"> ・より小さく ・何か減らせないか ・弱く、低く、短く、薄く、省略は、分割は
6. 代用したら	<ul style="list-style-type: none"> ・他の素材は ・他のアプローチは ・他の構成要素は
7. アレンジし直したら	<ul style="list-style-type: none"> ・要素を取り替えたなら ・他のパターンは ・原因と結果を入れ替えたなら
8. 逆にしたら	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろ向きにしたなら ・上下をひっくり返したら ・主客転倒したら
9. 組み合わせたら	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレンド、品揃え ・目的を組み合わせたら ・アイデアを組み合わせたら

オズボーンのチェックリストを使用した発想例

チェックリスト	例)時計の場合	一般例
1. 他に使い道は？	目覚まし時計	<ul style="list-style-type: none"> ・チタン素材の活用 (ロケット→ゴルフクラブ、ヨット) ・芸能人のイメージチェンジ
2. 応用できないか？	カレンダー(日付、曜日)を付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・ラーメン博物館(←札幌ラーメン横丁) ・
3. 変更したら	夜光塗料をつけて夜でも見える	<ul style="list-style-type: none"> ・乗用車のモデルチェンジ
4. 拡大したら	時計台	<ul style="list-style-type: none"> ・デラックス(豪華)型 ・オープン時間の延長
5. 縮小したら	懐中時計	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォークマン ・電卓 ・QB ハウス (10 分千円のヘアカット)
6. 代用したら	宝石をつけて宝飾品として	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者金融 ・ジャングル大帝レオ
7. アレンジし直したら	動力を入れ替えて太陽電池に	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイブリッドカー ・「古畑任三郎」のシナリオ (犯人は始めに分かっている) ・キャッチコピー「ビール、冷えています」(としまえん)
8. 逆にしたら	逆さ時計(左右反対の時計、左右反対の時計:鏡に映ったとき正常に見える)	<ul style="list-style-type: none"> ・モノレール ・はかせるおむつムーニーマン (赤ちゃんが気持ちいい→母親が気持ちいい)
9. 組み合わせたら	デジタル時計付きアナログ時計	<ul style="list-style-type: none"> ・消しゴム付きの鉛筆 ・K1/フライト'総合格闘技 ・昆布茶

オズボーンのチェックリスト

広告代理店に勤めていたアレックス・オズボーンが、アイデアを出すときのヒントをチェックリスト化したもの。前述のブレン・ストーミングもオズボーンの提唱によるものである。

方法	説明（例は時計の場合）
1 他に使い道はないか？（転用）	<ul style="list-style-type: none"> このままで新しい使い道はないか。 改善・改良して新しい使い道はないか。 （例）目覚まし時計
2 応用できないか？（応用）	<ul style="list-style-type: none"> 他にこれに似たものはないか。 他にこれを応用できないか。 （例）カレンダーを付ける（日付・曜日）
3 修正したら？（変更）	<ul style="list-style-type: none"> 意味、色、動き、型等を変えられないか。 その他の変化はないか。 （例）夜光塗料をつけて夜でも見える
4 大きくしたら？（拡大）	<ul style="list-style-type: none"> 何か大きくできないか。 付加価値、材料を追加できないか。 （例）時計台
5 小さくしたら？（縮小）	<ul style="list-style-type: none"> 何か小さくできないか。 省略、分割ができないか。 （例）懐中時計
6 代用したら？（代用）	<ul style="list-style-type: none"> 何か代用できないか。 他のアプローチ、製造工程は。 （例）宝石をつけて宝飾品として
7 アレンジしたら？（再配置）	<ul style="list-style-type: none"> 要素を取り替えできないか。 他のパターン、レイアウトは （例）動力を入れ替えて太陽電池に
8 逆さにしたら？（逆転）	<ul style="list-style-type: none"> 逆さにできないか。 後ろ向きにしたら、主客転倒させたら。 逆さ時計（左右反対の時計：鏡に映ったときに正常に見える）
9 組み合わせたら？（結合）	<ul style="list-style-type: none"> 組合せできないか。 目的、ユニット、アイデアを組み合わせたら （例）デジタル時計つきアナログ時計

ちょっと大人な問題解決法(鍵編)

問題発生	
	今日はいよいよ文化祭当日。 中学最後の文化祭で思い出に残る文化祭にしたいと 実行委員の生徒は毎日夜遅くまで文化祭の準備をしていた。 準備も整い、いざ本番当日 最後の仕上げをするために実行委員のメンバーは 7:30 集合で登校するのであった。
蘭子	ちょっと早く着きすぎちゃったね。集合時間まであと 30 分もあるよ。
久美	バスの時間に合わせると、この時間しかないもんね。
蘭子	でも、久美が鍵持ってるおかげで実行委員室にすぐ入れるね
久美	そうね。鍵出すからちょっと待ってね。
	(カバンの中から鍵を取りだそうとする久美。)
久美	あっ 無い！！ 鍵が無い！！ 昨日帰る時、カバンのこのポケットに入れていたはずなのに。
蘭子	そんなぁ。よく探しなさいよ。きっとあるって。
	(何度も何度もカバンを探す久美)
蘭子	もう 久美ったら 早く出しなさいよ 鍵。
久美	うっ う～ん ちよと待ってよ。
	カバンのあらゆるポケットを探す、久美。 最後は、カバンの中身を全て廊下にぶちまける。
久美	どうしよう どこにも入ってない……。
	今にも泣きそうな久美。
蘭子	もう(怒り)なにやってんのよ！！ 中学、最後の文化祭なのよ、実行委員室に入れないと文化祭できないじゃん！！
久美	ご ごめん。
	(そこに、旬馬 登場)
旬馬	チョリース おっ 早いな お前ら。 ところで、なにやってんの？ お前ら。
	怒り顔の蘭子 半べその久美 実行委員室の前に散らかった 久美のカバンとその中身 この光景に????な旬馬
蘭子	何やってんの じゃないわよ。 久美ったら 実行委員室の鍵無くしちゃって、実行委員室に入れないの。 もう、文化祭本番に間に合わないわよ。
久美	ほんと ごめんね。



解決手順①

「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」

旬馬	<p>まあまあ、そんな怒ったり、半べそかいててもしかたないじゃん。 どうしたらいいか考えようぜ。 …… あっ そうだ この前 総合的な学習の時間に 「ちょっと大人な解決法」習ったじゃん。 あれ、やってみようぜ。</p>
久美	<p>「ちょっと大人な解決法」……?</p>
蘭子	<p>も〜う 何でもいからさ 早く開けてよ 鍵。</p>
旬馬	<p>まあまあ、 まずは、「ちょっと大人な解決法」ってどんなものか 整理しようぜ。</p> <p><u>①「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」。</u></p> <p><u>②「事実を把握する(現状分析)」。</u></p> <p><u>③「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」。</u></p> <p><u>④「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」。</u></p> <p><u>⑤「あきらめない、前向きに考える」。</u></p> <p><u>⑥「どうしても解決できなければ初心に戻る」。</u></p>
旬馬	<p>こうやって 手順を整理することが大事なんだよな。 そうしてもう一つ。 蘭子 そうカリカリしない。 久美 メソメソしない(旬馬:ハンカチを久美に渡す)。 感情的にならずに冷静にならないとうまく解決できないぜ。 よし 三人でまずは深呼吸三回だ。</p>
	<p>(三人で深呼吸を三回する)</p>
蘭子	<p>うん ちょっと落ち着いたわ。 怒ってても何にもならないもんね。 久美 一緒に考えよ。</p>
久美	<p>うん。</p>


解決手順②

「事実を把握する(現状分析)」

旬馬	よし みんな冷静になったところで。		
蘭子	「事実を把握する(現状分析)」ね。		
旬馬	そうそう！ 昨日の帰るところから思い出してみようぜ。		
蘭子	確か昨日は、18:30に教頭先生が来て、19:00には校門が閉まるから、19:00までに帰るように言われたんだよね。 鍵はいつものように、久美が持って帰ることになったんだよね。		
旬馬	まっ 俺達の中じゃ久美が一番安心だモンな。		
蘭子	でも、19:00に間に合わず、19:05分頃になって私たちが出る時は校門閉まってたね。 校門を乗り越えて、私と久美はバス停へ、旬馬は駅へ行ったよね。 19:15のバスだったから、バスはすぐ来た。五分も待ってないね。そして、いつものように久美ん家の前のバス停で降りて、久美と別れた。別にいつも通りだったよ。		
久美	私はぁ・・・蘭子と別れて家に帰ったあと・・・何したっけなぁ。 まず、カバンは机の上に置いて、ご飯食べて少し勉強して早く寝たわ。 朝もそのままカバン持ってきた。		
旬馬	ふ～ん。		
蘭子	久美が家を出たときは、もう私バス停にいたもんね。 バス停から久美が出てくるの見てた。 そこからは、バスに乗って一緒に学校まで来たよね。		
旬馬	ということは こんな感じかなあ。		
	昨日	18:30	教頭先生が来る
		19:00	校門閉まる
		19:05	校門を出る
		19:15	久美、蘭子 バスに乗る
			久美、蘭子 バスを降りる
			久美 帰宅
	今日		久美 家を出る
			久美 蘭子 バスに乗る
			久美、蘭子 バスを降りる
		7:00	久美、蘭子 学校到着 鍵の紛失に気付く
久美	そうねえ、こんな感じ。		

解決手順③

「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」

旬馬	よーし、今度は問題を細かく切り分けるぞ。
蘭子	でも、問題を細かく切り分けるって、どうゆうことよ？
旬馬	う〜ん。
久美	ねえねえ。 時間帯別って言うか、場面ごとに分けてみるっていうのはどう。
旬馬	いいね〜え。
蘭子	ならさあ、こんな切り分けはどう。 人別、久美と 旬馬と 私、それぞれが何をしたかって考えるの。
旬馬	面白いけど・・・。 実際 俺って 鍵と直接関係ねえし。
蘭子	まあ そうね。
旬馬	じゃあ 時間帯別って言うか、場面で分けてみっべ。 第一段としては教頭先生が来てから校門を出るところだな。
蘭子	教頭先生が来た後、片づけをしなから、今日の準備についてみんなで話してた。 そして、鍵をどうするかってなって、一番信頼できそうな久美に渡したんだよね。 久美その鍵どうした？
久美	 鍵は無くさないように、直ぐにカバンの前のポケットに入れたよ。 ほら、ここのポケット。 結構急いでいたけど、ポケットに入れたのは确实。自信あるよ。 そして、校門までダッシュだった。 そういえば、校門越える時、旬馬にカバン渡した。
旬馬	おう、そうだったな。 校門越える時、女子のカバン俺が預かって、先に越えていた、蘭子に投げて渡したな。
蘭子	あっ、カバン受取る時、久美の落としたようなあ……
旬馬	おっ そこ怪しくねえ。 その時、鍵がポケットから落ちたとか。
蘭子	あるある それ、あるわねえ。 きっと 校門のところに落ちているわよ。
旬馬	行ってみようぜ。
	〔急いで校門へ駆けていく三人 校門に三人がたどり着く〕
旬馬	俺はこの辺に立って、蘭子に向って投げた。
蘭子	私は、この辺だったかな？
旬馬	そんな感じだな。 ここの俺のところから、蘭子の周辺が怪しいってことだな。 俺は、俺の周辺、 蘭子はお前の周辺、 久美は俺から蘭子までの間を探してみてくださいよ。
	〔必死で探す三人。 ……〕
蘭子	無いわねえ。

	久美どう？ そっちは。
久美	(首を横に振る)
解決手順④	
「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」	
旬馬	よっし 次 行ってみよう！！ えっと 次は、 何だっけなあ。
蘭子	「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」 でしょう。
旬馬	そうだった。 ところでさあ 最近 蘭子と比呂(ヒロ) 怪しくねえ。
蘭子	もう、 怪しくなんてないから。 それに「それぞれの関係を疑う」ってそんなことじゃない！！ 鍵と何かの結びつきを考えるってことでしょ。 例えば、鍵と私とか、鍵と旬馬、鍵とスクールバッグ。
旬馬	じょっ 冗談 冗談だよ。
	チラッと 久美を見る 旬馬 うなだれている 久美
旬馬	そうか。 実際、鍵 in 久美のスクールバッグの関係が成り立つことを考えると、久美のスクールバッグとの関係を探ってみることもありだよな。
蘭子	そうね。 旬馬と久美のスクールバッグの接点は校門で投げたときだけ？
旬馬	そうだなあ。 それ以外はないと思う。 ところで、蘭子と久美のスクールバッグの関係はどうなんだ？
蘭子	そうねえ 校門の所以外ないかなあ……。 あっ そういえば、バスで私たち一番後ろに座ったんだけど、次の停留所で久美の幼稚園の頃の友達に乗ってきて、久美、そっちに話に行ったんだ、その時、久美のスクールバッグは私の横にあって、カーブとかで何度か座席の下に落ちた。
旬馬	そこそこ！ そこも怪しくない？ バス会社電話してみろよ。
久美	(バス会社に電話してみる) (電話を切る 久美)
旬馬	どうだった？
久美	(首を横に振る)

解決手順⑤**「あきらめない、前向きに考える」**

蘭子	ダメじゃん。 もう、私たち部屋に入れないんじゃない。 文化祭できないんじゃない。 どうしよう。 私の三年間の集大成があ……。
久美	ごめんね。 私 どうしたら いいんだろう。 みんな ごめんね。 文化祭 できなくなって ごめんね。
旬馬	お前ら 何言ってんの。 誰も、文化祭ができなくなったなんて一言も言ってないじゃん。 結論急ぎすぎだっちゅーの。 それに 次のポイントは何だっかか覚えてる？ 「あきらめない！前向きに考える！」だけ。 今のお前ら、もうあきらめてないか。 あきらめたら 絶対 見つからないぜ 鍵。
蘭子	そうだね。 ごめん。
久美	どうにかしないとしかたないもんね。 このまま、あきらめるわけにはいかないか。

解決手順⑥**「どうしても解決できなければ初心に戻る」**

久美	さあ。 もう一度 初心に戻って考えてみましょう。
蘭子	そうね、それに問題の切り分けをしてない部分もあるし。 それぞれの関係だってまだ残ってる。
旬馬	いいねえ お前ら。 では、もう一度 教頭先生が来たところから行くか。
久美	ねえ 教頭先生が来たときって 比呂もいたよね。 直接 鍵には関係ないけど。
旬馬	比呂はチャリだから、チャリ置き場から 裏を抜けて帰っているはずだよな。
蘭子	もしかしたら 校門まで回ってきているかも……。
旬馬	えっ なんで???
蘭子	何となくだけど、 そんな気がするの。
旬馬	そうになると、比呂も重要参考人だな。
蘭子	(ひとり言の様につぶやく) そういえば 昨晚の電話は何だったのかしら……。

問題解決	
	(比呂が自転車で向かって来る姿が見える)
比呂	ごめんごめん遅くなっちゃって。 もっと早く来るつもりだったんだけどさあ。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 言い訳しながら、自転車を実行委員室の横に止め、 入口に向かう比呂。 ポケットから何かを取り出し、 入口を開け、 扉を開き、実行委員室にそそくさと入って行く。 </div>
旬馬 蘭子 久美	えっ なっ なんて。 (顔を見合わせる三人) (比呂を追い、急いで実行委員室に入る)
蘭子	なんで あんた 実行委員室に入れんのさ？
比呂	だって、鍵持ってるの俺じゃん。
蘭子	だから、なんであんたが鍵持っているの？
比呂	何怒ってんだよ。 お前こそ 昨日は、校門に迎えに来てても、もういないし。 電話しても、連絡付かないし。 おまけに 朝から 怒ってる。 わけわかんないよ。
旬馬	まあ まあ。 何だか お互いよくわかんないけど、 比呂、お前昨日の帰り、チャリで校門まで来たんだな？
比呂	ああ、来たさ。 蘭子を迎えにな。 そしたら 実行委員室の鍵が落ちていてさ。 俺が鍵持っていることを久美に伝えてもらおうと蘭子に電話したんだ。 でも、蘭子につながらないしさ。 だから、今日は鍵を開けるためにもう少し早く来ようと思っていたんだけどな。 ちょっと、遅くなっちゃった。
旬馬	比呂と蘭子の問題は二人でロジックに考えてもらうとしてさ。 なんとか文化祭の準備間に合いそうだな。
久美	よかった。 でも、時間も少なくなってきたわ。 みんな 準備 とりかかりましょ。
	意気揚々と準備に取り掛かる四人 文化祭は無事成功したようです

まとめ	
	①「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」
	<p>今回の場合、句馬が登場した時、蘭子は少し怒っている、久美は半ベソをかいている状態でした。このように平常心でない場合、簡単な問題も解決することはできません。</p> <p>①まずは冷静になること ②次にどのように考えを進めていくか全体像を確認することが大事です。 冷静でなく、全体像を見れていないと、小さなことのみにとらわれ問題の解決からは遠く離れてしまうでしょう</p>
	②「事実を把握する(現状分析)」
	<p>現在どういう状況なのか。また、現状になったいきさつを整理します。今回は、教頭先生が来てから鍵の紛失に気付くまでを時間の経過に沿って整理しました。</p>
	③「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」
	<p>問題を分割して、詳しく探っていきます。校門を出るところを詳しく探ることにより、校門で鍵が落ちたかもしれないことに気がきます。</p> <p>そして、「校門で鍵が落ちた」という予想(仮説)を検証するために、実際に校門に行き鍵を探しました。</p>
	④「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」
	<p>切り口をかえて、人と物、物と物、人と人との関連性を整理します。鍵が久美のスクールバックに入っているという関係が成立することにより、久美のスクールバックに関係した人・事を軸に事実を探っていきます。バスの中で落としたのかもしれないという予想(仮説)がされました。そして、「バスで鍵が落ちた」という予想(仮説)を検証するために、バス会社に電話をしました。</p> <p>③④とも予想(仮説)は外れました。しかし、予想に対して検証することが必要です。検証しなければ解決に至ることはありません。</p>
	⑤「あきらめない、前向きに考える」
	<p>たった 2 度予想(仮説)が外れたことで、蘭子と久美は悲観的になりあきらめようとしません。悲観的になると「文化祭が開催できない」と、マイナスの発想ばかりが生まれてしまいます。</p> <p>また、考えることを止めてしまうと、それ以上先には絶対進みません。</p> <p>問題解決の重要なポイントは「解決するまで考える(あきらめない)」ことです。</p>
	⑥「どうしても解決できなければ初心に戻る」
	<p>気を取り直した3人は、再度最初から考えることにします。そして、比呂もいたことに気がきます。句馬と久美には予想できなかった比呂の行動ですが、蘭子には予想できました。視点が替わったり、考える人が異なると、別の考えや発想が生まれてきます。</p>

ちょっと大人な問題解決法(席替え編)

<プロローグ>

今日は2年B組の席替えの日です。
学級委員の智君がくじを作ってくれました。
くじの仕組みは、

- ・くじ1枚に一つの数字が智君の手書きで記入してある。
- ・一人一枚そのくじを引く。
- ・黒板に座席表を描いて、そこには番号をふっておく。
- ・引いたくじの番号と同じ番号がふってある座席に着く。

というものです。

<問題発生>

全員がくじを引き終えたので、先生の「移動」という号令とともにみんな一斉に席を移動しました。みんなガヤガヤと移動した後、大半が自分の席を見つけ着席したようです。ところが一箇所、何やらもめ事が起こっている様子。近づいてみると・・・

綾香さんと潤君が一つの席を取り合っているようです。どちらも、この席は自分のものだと言いつつ合っています。この様子を見ていた、副学級委員の聡美さん。

聡美:「綾香さん、潤君、何をそんなに言い争っているの?」

潤:「どうもこうもあるもんか!!俺の席がここなのに、綾香が自分のだつて言い張るんだよ」

綾香:「潤こそ何言ってるのって感じ。さっさと自分の席行きなさいよ。」

どうもこのままでは解決の糸口は見えてこないようです。

聡美さんもどうしたらいいものか思索顔です。

<問題解決に向けて>

聡美:「あっ そうだ!」

聡美さんは何か名案を思い付いた様です。
そして、学級委員の智君の所に向かいました。

聡美:「ねえねえ 先週総合学習の時間“ちょっと大人な問題解決法”ってしてでしよ。あれで話を進めてみない。」

智:「いいね～え。じゃっ 聡美よろしく頼むな」

聡美:「えっ っていうか 私がやんの。もう」

問題解決を押しつけられた形の聡美ですが、再び潤君と綾香さんのもとへ向かいます。

<問題解決①>「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」

聡美:「二人とも、ずっと言い合っても解決の糸口は見えてこないんじゃない?ちょっと大人なやり方で考えてみましょう。」

二人の言い合いがびたっと止まりました。

聡美:「まずは、二人ともイライラしないで。どっちが悪いかじゃなくて、なにが原因でこんなことになってしまったのか、冷静に落ち着いて考えてみましょう。感情に任せて言い争うのではなく、こういう時は論理的に考えることが重要よ。」

大人の問題解決方法っていうのはね、

- ①「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」
- ②「事実を把握する(現状分析)」
- ③「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」
- ④「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」
- ⑤「仮説を評価する」
- ⑥「どうしても解決できなければ初心に戻る」

私からはこの6つのポイントを挙げるわね。」

潤:「よく分かんないけど、まあ聡美の言う通りにしてみるよ」

綾香:「そうね、いつまでももめているわけにいかないものね」

聡美:「二人ともだいぶイライラがおさまったみたいだから

- ①「冷静に落ち着いてロジカル(論理的)に考える」

の、冷静にはクリアね。続いてロジカル(論理的)に考えていきましょう。」

<問題解決②>「事実を把握する(現状分析)」

聡美:「では次、

- ②「事実を把握する(現状分析)」

にうつりましょう。

席替えて起こった事実を、一つ一つ問題がないか見ていきましょう。

二人とも、何番の紙を持っているの?」

綾香:「6番よ」

潤:「6番だよ」

聡美:「二人とも6番の紙を持っているのね。」

聡美:「黒板の座席表にはこの席は何番って書いてあるの?」

綾香:「6番だよ。やっぱり、私間違っていない!」

潤:「俺だって合っているし…」

聡美:「ほら、やめなさいって。まったく、まだまだ大人になりきれないわねえ…。さっき言った5つのポイント、まだ残っているわよ。試してみましょう!」

なんとか事実関係をはっきりさせることはできたようです。



<問題解決③>「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」

聡美:「続いて、③「問題を切り分け、順序立てて問題を絞り込む」ね。
問題の切り分け方として、“くじ”と“席”に分けましょうか。
“くじ”について潤くん、“席”について綾香さん調べてみて」

潤君は“くじ”を1から順番に確認してみました。

潤:「一通り確認したよ。6が二枚あった。俺と綾香が持つてるやつ。でも9が無い。」

綾香さんも黒板に描かれた座席表と座席を確認しました。

綾香:「座席表と座席は一致するわ。番号も全部ある。問題なしね。ただ、9番の席は空いているの。そして6番の席には潤と私の二人がいる。って感じかな。」

潤:「ということは“6”の他に“9”にも問題があるのかなあ??」

問題を切り分けることで、“9”という数字もクローズアップされてきたようです。

<問題解決④>「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」

潤:「じゃあ ④「それぞれの関係(コミュニケーション)を疑う」
ってことになるわけだな。」

綾香:「そうなんだけど……。 “6”以外にも“9”っていう数字も問題ってことだよな、問題増えちゃったよ。それに“6”と“9”の関係って何かしら?」

聡美:「“6”と“9”ただ数字だけの関係でもなさそうよ。まだ誰のものか決まっていない席が二つ、席が決まっていない人が二人。一人が“6”の席、そしてもう一人が“9”の席と考えたほうがよさそうね。」

潤:「そうだな、そう考えるとスッキリするな。」

どうやら、数字としての“6”と“9”の関係、“くじ”として残っている2枚と、空いている席2つの関係を疑うことで、どちらかの“くじ”が“6”ではなく“9”ではないかという仮説が浮かび上がってきたようです。

<問題解決⑤>「仮説を評価する」

聡美:「いよいよ どちらかの“6”が“9”ではないかという

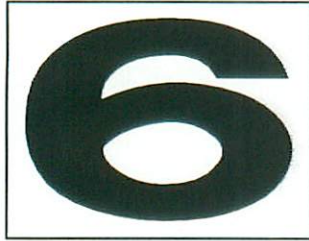
⑤「仮説を評価する」

時がきたようね。」

綾香:「何だかドキドキしてきた。」

聡美:「では、綾香さん潤君それぞれが持っている“くじ”を見せて下さい。」

綾香さん潤君がそれぞれの“くじ”を見せました。



綾香さん



潤君

綾香:「あれ～ どっちも“6”よねえ。」

潤:「確かに、綾香のも“6”だな。」

聡美:「ちょっと待って。どっちも“6”とも見えるけど、“9”にも見えない。」

聡美さんは、綾香さんや潤君とは反対側からこの“くじ”の数字を見ていました。
反対からみると異なったように見えるようです。

潤:「な～んだ。俺も綾香も“9”ってことか」

綾香:「おいおい、それもおかしいだろ。」

聡美:「片方が“6”でもう片方が“9”っていう仮説は間違いではなさそうね。数字の形も微妙に違うようだし……。」

潤:「この“6”が“9”どうやって見分けたいんだよ」

どちらかの“くじ”が“6”ではなく“9”ではないかという仮説は、間違いではなさそうです。しかし、その違いを見分ける方法はどのようにしたらいいのでしょうか。

<問題解決⑥>「どうしても解決できなければ初心に戻る」

聡美:「よ～し、こうなったら

⑥「どうしても解決できなければ初心に戻る」ね。」

聡美:「この“くじ”は、学級委員の智君が作った。そこに戻るしかないわ。

智君、この綾香さんと潤君の“くじ”、どっちが“6”で“9”だか判る？」

智:「えっ あれ どっちも“6”だし“9”だね。」

聡美:「だから困ってるのよ。

智君に聞いても判らないのか。どうしよう……」

そうだ！ 初心に戻って、智君もう一回“くじ”書いてみてよ。」

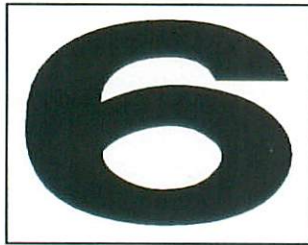
智:「いいよ。簡単だから。」

智君は、初めに“くじ”を作ったように、まず紙に1から数字を書いていきました。

智君が“くじ”用に書いた数字

1 2 3 4 5 6 7 8 9

綾香さん潤君の“くじ”と比べてみましょう。



綾香さん



潤君

聡美:「判った！！ 綾香さんの“くじ”が“6”で、潤君のが“9”ね。」

潤 :「なんだ、俺のほうは“9”か、じゃあ“9”番に移動しますか。」

綾香:「よかった、これですっきりした気持ちで“6”番に座れるわ。

有難う 聡美。」

“くじ”を作るという、初めの段階を振り返ることにより智君が書く数字の特徴を知ることができました。どちらが本物の“6”か判明して一件落着です。

<エピソード>

いかがでしたか。

「ちょっと大人な問題解決方法」このクラスでの問題解決はみんなが冷静になることで、スムーズにスタートしていきました。冷静になること、問題を中心に全体を見ること、一つ一つを切り分けて具体的に検証すること、最後まであきらめないことが問題を解決する上で大切の様ですね。皆さんも色々な問題にぶつかるとは思いますがそんな時この「ちょっと大人な問題解決法」を思い出して下さい。

あれあれ、智君と聡美さんがあちらで何か話をしているようですね。もう少し聞いてみましょう

智 :「聡美さん有難う。おかげで無事席替えも完了したよ。」

聡美:「そうねえ、今回はなんとか解決したけど、また同じような問題が発生する可能性はあるわ。次回の“くじ”で同じ問題が発生しないために、どうしたらいいのか考えておいたほうが良さそうね。」

智 :「そうだな。同じ失敗を繰り返していると進歩が無いもんな。クラスのみんなで話合っておこうか。」

聡美さんの提案により、次回このような“くじ”を使うとき、どうしたらいいのかの話し合いをクラスで行うことになりました。皆さんも何かよい方法を考えてみて下さい。

ちなみにみなさんもなぜ潤君が“9”で綾香さんが“6”か判りましたか？
下の図で確認してみてください。

智君が“くじ”用に書いた数字

1 2 3 4 5 6 7 8 9

綾香さん

潤君

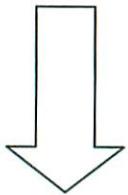
出典/引用の表示について

引用(出典)って何？

辞書では

引用:人の言葉や文章を、自分の話や文の中に引いて用いること。

出典: 引用文、また引用された語句などの出所である書物。典拠。



まとめて言うと

典拠:頼りにできる根拠。文献などにみえる、しっかりしたよりどころ。「一を示す」

引用:ほかの人が書いた文章やイラストを自分の文章の中で使うこと

出典:引用される文章やイラストが書いてあるもの

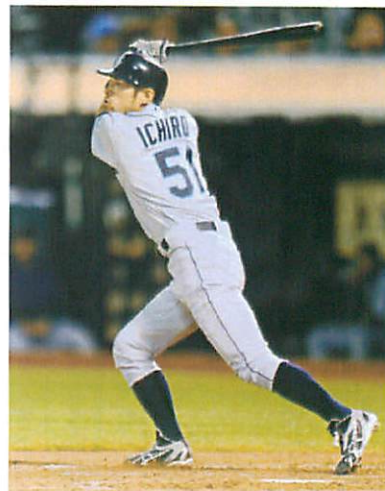
引用されているものってどんなものがある？

本の一文

日本最初の鉄道が新橋～横浜間に建設された際、そのゲージ(軌間)を 1067mm(狭軌。現在の JR 在来線の軌間)に決めたのは大隈である。イギリス人技師の説明を聞いて大隈が決めたのだが両者ともに「日本の鉄道なら狭軌で十分」という感覚だったといい、「我輩の一世一代の失策」と大隈は後日語っていたという(池田邦彦「鉄道史の分岐点」イカロス出版、2005年)。

wikipedia

新聞や雑誌の画像



アスレックス戦の2回、左前適時打を放つマリナーズのイチロー(7日、オークランド・コロシウム)＝共同

アスレックス戦の2回、左前適時打を放つマリナーズのイチロー(7日、オークランド・コロシウム)＝共同

実験調査結果

中学・高校生の男女別平均身長一覧

中学生（12～14歳）から高校生（15～17歳）までの平均身長を男女別の一覧表でまとめられています。

【年齢】	【時期】	【男子の平均身長】	【女子の平均身長】
12歳	中学1年	152.5cm	152.0cm
13歳	中学2年	159.9cm	155.2cm
14歳	中学3年	165.4cm	156.8cm
15歳	高校1年	168.4cm	157.3cm
16歳	高校2年	170.0cm	157.8cm
17歳	高校3年	170.8cm	158.0cm

文部科学省 学校保健統計調査（平成17年度）より

Copyright © 2006 身長事典 平均身長・低身長・身長を伸ばす方法. All rights reserved

なぜ引用するの(引用の効果)

1. 自分の考えを説得力、信頼性のあるものにできます。

信頼できるデータや言葉を引用することで、読み手が納得し、共感できます。

なぜ出典を明示しないといけないの

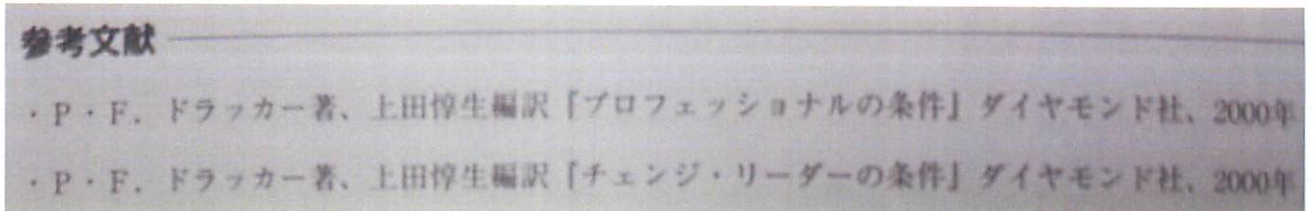
1. 著作権の遵守

著作権法で引用元(出典)を明らかにしないとイケないことになっています。

著作権法 32 条 1 項：公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

出典の表示方法

- ・本文または引用箇所の最後に著者名/著書名/発行者名/出版年/ページ数の順に明記する



- ・ホームページからの引用はアドレスを明記する。

やってはいけないこと

1.必要以上に大量に引用する

⇒大量の引用になると「転載」になり、原作者の許可を取る必要があります

2.文末の表現や言い回しをかえる

⇒原文のまま手を加えずに引用する必要があります。

3.出典を明示せずに文章・データ・画像を引用する

⇒ルールに従い出典は必ず明示する必要があります。



企画書の書き方のポイント

■企画書の目的と着眼点

企画書は、実際の仕事の中でさまざまなときに作られます。たとえば…

- 売上を上げる(販売促進・商品開発)
 - 新製品販売キャンペーン
 - イベント開催
 - 販売先開拓
 - 新サービス導入
 - 新商品開発
 - 広告企画
 - 新規出店 など
- 業務を改善する
 - コスト削減
 - 時間短縮・スピードアップ
 - 品質向上
 - 安全性向上・事故低減 など

つまり、何かの新しい取組みを行う際、その内容を関係者に伝え、責任者の承諾を得るために作成します。この場合の「新しい取組み」とは、現在会社や仕事の中で「問題となっていることを解決すること」「やらなければならないこと」です。ということは、企画書は次の 2 点を最低限押さえる必要があります。

- ① 内容がきちんと伝わる
- ② 相手に納得してもらう

簡単にいえば、「わかりやすい」ことがまず第一なのです。わかりやすい企画書を作るには、企画書の「内容」と「表現」に関して、押さえるべきポイントがあります。

■企画書の基本フォーマット

企画書は特に決まった書式があるわけではありません。しかし、企画書の目的を踏まえると、次のポイントについて整理しておく必要があります。

- ① 目的…何のための企画か？
- ② ベネフィット(便益)…それによってどんな価値があるのか？
- ③ 裏づけ…なぜこの企画が必要なのか？ そのベネフィットが得られる根拠は何か？

上記の基本の3点を押さえた上で、具体的な提案内容を作っていく。一般的には「6W2H」と呼ばれる次のような項目について検討していく。

- ア) What(何を)…企画の骨子、具体的内容など
- イ) When(いつ)…実施時期、期限、準備期間、作業スケジュールなど
- ウ) Where(どこで)…場所、地域、会場、販売先(チャンネル)など
- エ) Who(誰が)…担当部署、実施主体、メンバーなど
- オ) Whom(誰に)…顧客ターゲット、訴求対象、実施対象など
- カ) Why(なぜ)…企画主旨、目的、理由、期待効果など
- キ) How(どのように)…具体的方法、手段、戦略・戦術など
- ク) How much(どのくらい)…予算、経費、価格など

前述の「目的」「ベネフィット」「裏づけ」は、上での「What」「Why」にあたる内容であることがわかる。企画書全体で「So What?」(それで結局何?)「Why So?」(なぜそうなる?)がきちんとわかるようにしよう。

■わかりやすい表現のポイント

「わかりやすい」企画書とは、前述の内容を押さえるだけでなく、企画書の流れ(ストーリー)と表現の仕方に工夫が必要である。具体的には下記のようなポイントがある。

【一般的な企画書の流れ(ストーリー)】

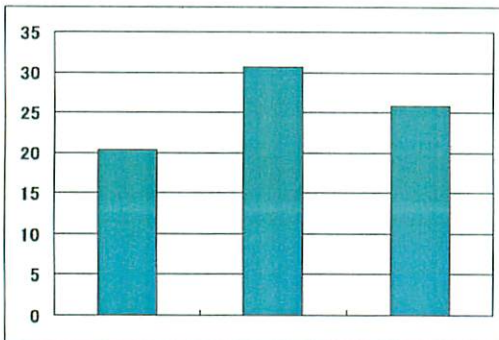
「企画の主旨・目的」⇒「企画の期待効果」⇒「現状の分析」⇒「具体的施策の内容」

※「企画の期待効果」は最後になる場合もある。テーマによって検討すると良い。

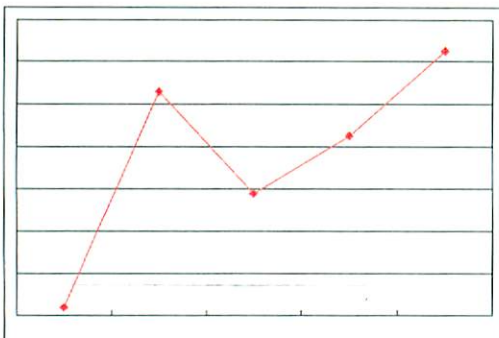
【表現方法の工夫】

- 箇条書きで書く…簡潔でわかりやすくなる
- あいまいな表現はできるだけ避け、数字などを使ってイメージをわきやすくする…あいまいな表現の例⇒「かなり」「ほとんど」「少し」「やや」「大幅に」「たいいてい」「ほぼ」など
- 口語表現を避け、書き言葉で書く…口語表現の例(かっこ内が一般的な書き言葉)⇒「ちょっと」(少し)・「やっぱり」(やはり)・「とっても」(超～)(とても・非常に)・「けっこう」(かなり)など
- 表や図を必要に応じて使う…文章だけよりも表や図を使った方がわかりやすい。図やグラフの例には以下のようなものがある。

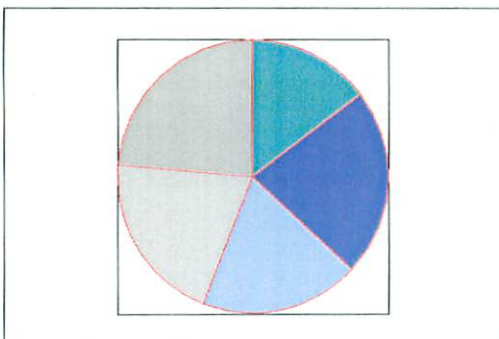
【グラフ】



棒グラフ…大きさ・量を比較する

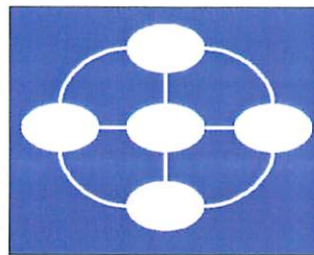
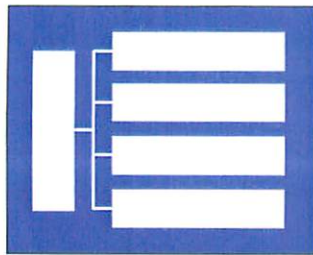


折れ線グラフ…時間の経過にともなう変化を表す

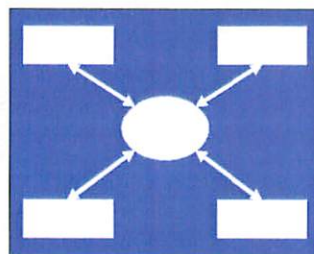
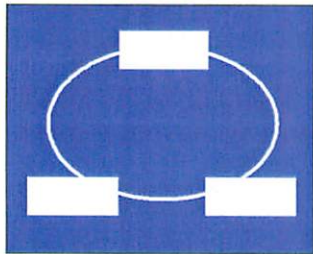


円グラフ…要素ごとの構成比(パーセンテージ)を示す

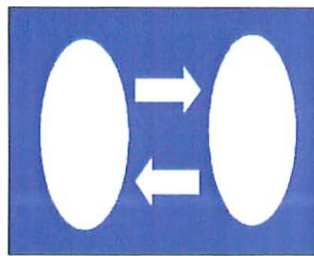
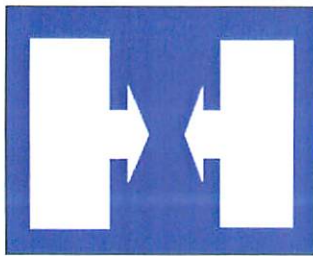
【図による表現】



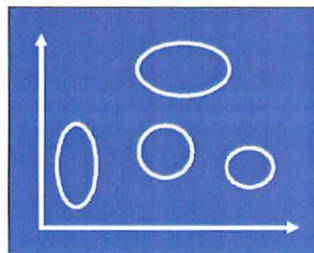
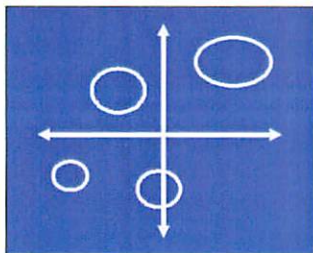
⇒全体像を示す



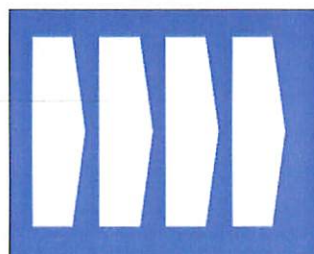
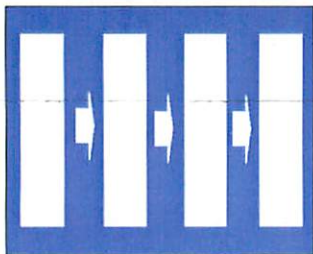
⇒関連を示す



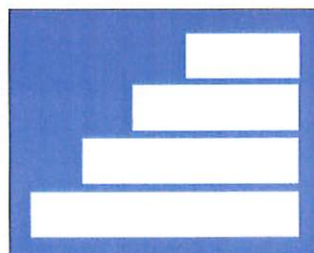
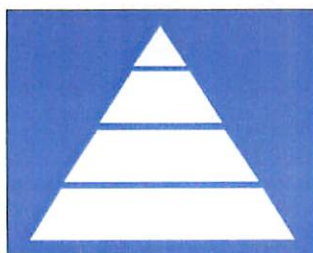
⇒対立・対比を示す



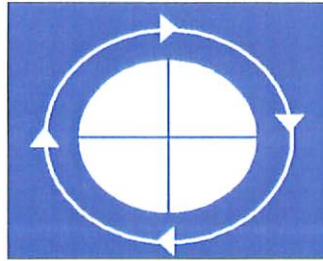
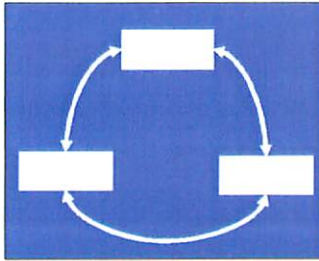
⇒位置関係を示す



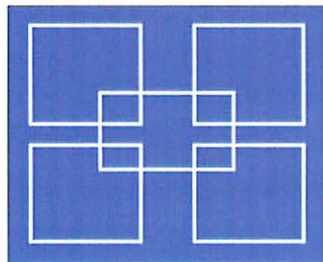
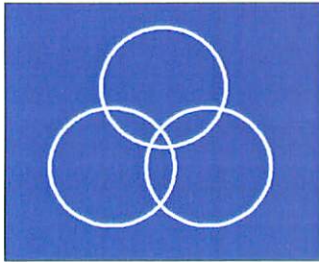
⇒順序・流れを示す



⇒階層性を示す



⇒循環性・連関性を示す



⇒重層性を示す

◇参考

- ・ 神 一郎「企画書の書き方・まとめ方」創元社, 2002 年
- ・ 高橋憲行「企画書 100 事例集」インデックス・コミュニケーションズ 1994 年
- ・ 野地秩嘉「企画書は一行」光文社新書, 2006 年
- ・ 戸田 覚「すごい人のすごい企画書」PHPビジネス新書, 2006 年